

8月～9月のハボタンに発生する苗立枯れ症状の病原菌



1. ピシウム菌による苗立枯れ

ブロッコリー苗立枯病菌によるハボタンの被害です。地際よりやや上の胚軸部が褐色水浸状に軟化腐敗します。造卵器は突起で覆われています。

例年、8月に発生しています。高温になった土面によって苗が焼けるのを避けるために過漕水気味になることが発生要因と思われます。



2. ブロッコリー苗立枯病

ブロッコリー、セル苗の地際から上の胚軸部が灰褐色にくびれて立枯れ症状を呈していました。胚軸の腐敗は子葉にまで拡大しました。

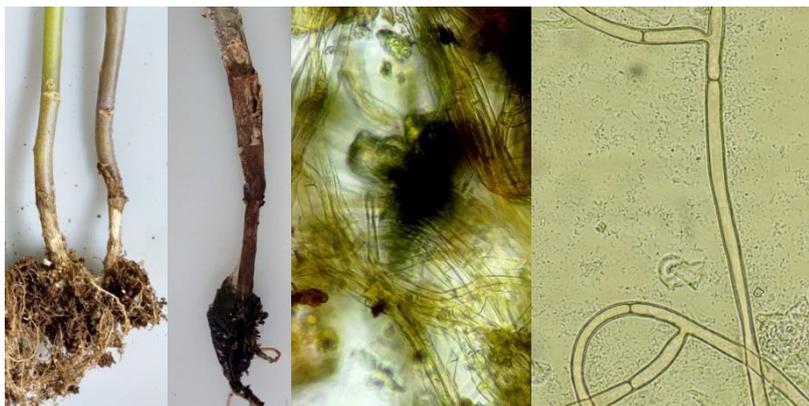
被害組織を剥ぎ取り、顕微鏡で観察すると、ピシウム菌の大量の卵胞子が見られます。造卵器は突起で覆われています。



3. ブロッコリーピシウム腐敗病

ブロッコリー苗の地際部が灰褐色になりくびれます。ピシウム菌によって起きる病害ですが、造卵器の表面に突起は無く平滑なのが特徴です。比較的低温時、5月に発生が認められています。

ハボタンにも感染する可能性があります。未確認です。ハボタンの育苗期が高温時のせいかもしれません。



4. ハボタン苗立枯病

地際部が灰褐色に変色腐敗し、くびれて細くなる症状はピシウムに似ており、地際の茎が繊維質を残して褐変腐敗する症状は根朽病に似ています。被害部はT字型分岐を持つリゾクトニア菌の菌糸で覆われています。気温のやや下がってきた9月に発生が見られています。